



手良小学校
だより

きらら

令和4年12月16日

No.9



学校HP

親子で力を合わせて…PTA第26回「親子ふれあいトンカチ教室」

手良地区建設労働組合（有志）手良活性化促進会議 手良公民館 手良地区子ども会育成会の各団体よりご支援をいただき、12月3日（土）に「親子ふれあいトンカチ教室」が行われました。



親子で力を合わせて一つのものを作り上げていく貴重な体験の場でもあり、また子どもたちにとって地区の方々とふれあう場としてたいへん貴重な機会となっています。

今年度制作したものは「折りたためるアウトドアチェア」。おうちの方がしっかりと板を支え、慎重に釘を打つ子どもたち。最後に校長先生

やPTA副会長さんに「手良小学校」の焼き印を希望するところに押しってもらって完成。素敵な作品ができました。

また、当日は「手良太鼓」の発表会が開かれました。完成したばかりの手作りの椅子に腰かけて、手良太鼓の皆さんの力のこもった演奏を聴くことができました。



「心に残る一冊と出会おう」…12月16日まで「冬の読書旬間」

日の短いこの時期に、家族や友だちと本について語り合うとともに、一人ひとりがより本に親しむことを願い12月5～16日まで、読書旬間が行われています。

6日(火)は読書ボランティアの皆様による「読み聞かせの会」がありました。

テレビモニターに映し出される本(『じゃない!』)の絵を見たり、紙芝居(『おだんごころころ』)の絵を見ながら、子どもたちはボランティアの皆様の語りに聞き入っていました。



「『じゃない』のすべてがおもしろかったけど、ぼくが一番おもしろかったのは、アイスのなかみを手だったからおもしろかったし、ちょっとこわかったし、ふしぎだなーっておもいました。」(1年Nさん)

「私が一番おもしろかったのは紙しばいの『おだんごコロコロ』です。どうしてかという、みんなで声を合わせたり、一人ひとりの声その

役に合っていておもしろかったからです。次におもしろいと思ったのは、『バスが来ましたよ』です。目の見えない病気の人のお手伝いをしていた女の子や男の子がすごいと思いました。いろんな本を知ったり、知らない本が見れてうれしかったです。」(3年Rさん)

「今日は楽しい読み聞かせをしてくださって、ありがとうございます。私が一番心に残ったのは『バスが来ましたよ』です。私はノンフィクションが好きです。伝記を主に読んでいて、絵本は初めてだったので、わくわくしました。心に残った理由は、小学生たちが主人公を助けていて、それが当たり前になっていることに心があたたまったからです。私も『さきちゃん』みたいになれたらいいな、と思いました。すてきな読み聞かせをありがとうございました。」(4年Sさん)

本の世界のよさに触れるばかりでなく、こうした機会をつくってくださり、練習など準備をされてきた地域の皆様へ、厚い感謝の気持ちももつことができました子どもたちでした。



9日は先生方による読み聞かせもありました。子どもたちは聞いてみたい本を選ぶのみで、実際に誰が読んでくれるかはわかりません。「ふまんばかりのメシュカおばさん」という本を選んだ子どもたちは、校長先生の読み聞かせでした。

【お知らせ】令和5年1月の
予定と下校時刻はこちらより
ご覧ください→

